



と い で の

校訓 「自立・創造・敬愛」



高岡市立戸出東部小学校
令和7年10月1日発行

視点を増やす＝豊かな見方ができる

第3学年

2学期がスタートして1か月、子供たちががんばっていることのひとつに「追究ノート」があります。「追究ノート」とは、それぞれの子供が、興味・関心があるものを調べてまとめるノートです。はじめは「書く量」を意識して進めてきましたが、だんだん書く内容の質が変わってきました。

例えば、社会科の学習等を通して、獲得した以下のような視点をもって追究ノートに取り組む姿が見られます。「比べる」「同じ部分を見つける」「関係を考える」「自分なりの予想を立てる」等です。手本となる追究ノートを全員に紹介することで学びを広げています。3年生の子供たちのよさは、友達のよさを素直に受け入れるところです。友達の追究ノートのよさも「いいところはいい」と認め、どんどん真似る姿が見られます。友達との関わりを通して、きっとこれから新たな「視点」が増えていくと思います。視点が増えることで、豊かに物事を見ることができるようになり、豊かな見方を得ることで、豊かな生活、さらにその先の人生をも豊かにすることができると考えています。

追究ノートを通して、子供たちはこれから豊かな見方を手に入れてくれることでしょう。手に入れた見方を普段から使い、これからの生活や他の教科でどんどん生かしてほしいと思います。それぞれの興味・関心を追究することを通して、「ホンモノの力」を身に付けてほしいと願っています。



「本との出会いをもっと身近に」

図書主任

本校のメディアホールには、いつも子供たちのキラキラした瞳があふれています。休み時間になると「今日はどんな本を借りようかなあ」と本棚の前に集まり、目を輝かせながら本を選ぶ姿が見られます。朝活動の時間には、本を借り、わずか10分ほどの短い時間ですが、落ち着いて自分が選んだ1冊の本と向き合い、1日のスタートを心穏やかに切っている子供もいます。10分という短い時間であっても、毎日積み重ねていくことにより読書習慣が身に付き、本への親しみが深まっていくのを感じています。

また、図書委員会では、全校のみなさんに本に親しんでもらいたいという思いから、「絵本の読み聞かせ紹介」、「読書ビンゴ」、「本のしおりづくり」など、様々な企画を考えています。1学期に行った「絵本の読み聞かせ紹介」では、1年生では「へんしんおてんき」、2年生では「ともだちや」「いちにちだじゃれ」、3年生では「ゾウの長い鼻には、おどろきのわけがある!」を紹介しました。子どもたちは物語に夢中になり、静かに耳を傾けていました。読み終えた後には、「これってどうなっているの?」、「もう一度読みたいな」、「続きが気になるから借りてみよう」という感想等を友達と楽しそうに共有する姿が見られ、読書の輪が広がっていました。

ぜひ、ご家庭でも読書タイムを取り入れていただき、読書の楽しさ、読書の秋を親子で味わってみてください。

